

四国こどもとおとなの  
医療センター形成外科医長 松尾伸二氏

## 香川の医療最前線



●まつお・しんじ 1995年  
徳島大学部卒。同大学部付  
属病院、竹田総合病院、鳥取県  
立中央病院、十全総合病院、阪  
本病院などを経て2014年4  
月から現職。日本形成外科学会  
専門医、日本創傷外科学会専門  
医、皮膚腫瘍外科分野指導医。  
岐阜県岐阜市出身。48歳。

子どもの体表に見られる先天的な「あざ」の治療法としては、レーザー照射が一般的だ。さらにあざの種類によっては、レーザーを使わず薬を飲んで消す内服治療も広まりつつある。四国こどもとおとなの医療センターの松尾伸二形成外科医長に、あざ治療の最新の知見を聞いた。

子どもの体表に見られる先天的な「あざ」の治療法としては、レーザー照射が一般的だ。さらにあざの種類によっては、レーザーを使わず薬を飲んで消す内服治療も広まりつつある。四国こどもとおとなの医療センターの松尾伸二形成外科医長に、あざ治療の最新の知見を聞いた。

射する。小さなあざでも顔面(目の周囲)にある場合は、安全を考慮して全身麻酔で行う。照射は3カ月ごとに3〜5回続け、あざが目立たなくなった時点で終了する。

たつと真っ黒く薄いかさぶたになり、剥がれると色調が改善する。一方で、茶あざ(扁平母斑)は再発しやすいため、部分的に照射して数カ月間様子を見る。レーザー治療の効果は認められた場合は、全体に照射する。四肢にある茶あざは成長に伴って肌が日焼けするにつれ、目立ちにくくなることもある。

のようになり、赤くなって盛り上がる。いちど血管腫は、シロップ剤の内服治療が昨年から保険適用になった。これまでレーザーが効きにくかった皮下型の血管腫にも効果がある。外科的な治療法ではないため、当院では小児科の医師と連携し、患者に一度入院してもらって薬の量を調整する。約1年間の内服治療で血管腫は消えていく。

### 子どものあざ

## 段階的にレーザー照射

## 内服治療も一部保険適用

あざにはどのような種類があるのか。色の違いで赤あざ、青あざ、茶あざ、黒あざと種類が分かれる。先天的にあざができる原因ははっきりしていない。発生する箇所や大きさ、形には個人差があり、症状に応じて対処していく。

直径数ミリのレーザーを少くすくすうしながら満遍なく当てていく。あるが、数カ月たつと治療前との種類によって、使用するレーザー装置の種類も異なる。小さなあざであれば数分で終わるが、範囲が広い場合は子どもが動かないように全身麻酔をかけて照射するとよい。

茶あざ  
再発しやすい  
部分にのみ照射し効果を確認する

黒あざ  
レーザーが効きにくい  
切除手術の場合もある

赤、青、茶あざはレーザーを照射して消す方法が一般的だ。レーザー照射はこの10〜20年で普及した治療法で、皮膚に傷痕が残りにくい。

たつと紫色になる。1週間後に徐々に色が濃くなるが、数カ月たつと治療前より薄くなる。腰部以外に蒙古斑ができる「異所性蒙古斑」や顔の左右どちらか半分に出る「太田母斑」などの茶あざは、照射後に少しずつ白くなる。1週間

あざのレーザー治療  
3カ月おきにレーザー照射  
3〜5回繰り返し、消えれば終了

あざ以外にも形成外科で治療する疾患は多い。頭皮にできる良性的な腫瘍「脂腺母斑」や耳が側頭部の皮膚に埋もれる「埋没耳」、隣り合う指が癒着する「合指症」など対処する疾患は多岐にわたる。やけどや交通事故の顔面骨折などの治療にも当たっている。患者のQOL(生活の質)の向上を目指し、今後も適切な治療に取り組んでいく。

■ 四国こどもとおとなの  
医療センター形成外科

医師3人が在籍。皮膚や皮下にできた腫瘍、体の表面の先天性の変形やあざなどの治療に当たる。  
所在地：普通寺市仙遊町2-1-1  
電話：0877(62)1000  
<http://www.shikoku-med.jp/>